**信仰の礎   2016年9月18日**

**創世記 4: 1-4 安達均**

主の恵みと平安が集まった会衆の心の中に豊かに染み渡りますように！

これから25年、あなたの人生はどうなっているでしょうか？　こうなっているということがいえる方はいるだろうか？少々、質問を変えて、今から25年前をふりかえって、そのときからみて、今の状況、家族にしろ、住んでいる環境にしろ予測したとおりの人生を送っている方いるだろうか？

四半世紀という単位、大きな変化があると思う。私は25年前というと、まだ日本にいた。ちょうど3番目の子どもが生まれる年だった。それから3年後にはボストンにいたが、6年後からは家族全員でカリフォルニアに住むなどということは全然わかっていなかった。

ましてや25年後に、私が教会の牧師として、しかも英語でも説教をしているなどということは、全く想像外のことだった。しかし、はっきりしているのは、結婚してから、日曜の礼拝はどこに住んでいても、それを最優先とする歩みであったと思う。

さて、本日与えられている聖書の箇所は、創世記12章。アブラハムの召命のところだ。すでにアブラハムは75歳になっていた。父親のテラが率いて、一族は、生まれ故郷のウルを出発して、ハランというところまで来ていたところだった。

しかし、ハランにて、父のテラが亡くなり、アブラハムは召命を受けた。その内容は、さきほど、読まれたとおりだが、簡単に言うと

1）私の示す土地に行きなさいということと、

２）アブラハムによって、地球上の家族全員が祝福を受けることになる。

ということだった。

そこには、具体的には、どこに行きなさいという土地の名前や場所は書かれておらず、本当にどこに行くことになるかはわかっていなかった。また、アブラハム自身によって、地球の家族が祝福を受けるなどということは、自分たちには子供が生まれていないアブラハム夫婦にとって、どういうことを意味するのかわかっていなかったのだと思う。

ここで、ちょっと説明してみたいと思うが、父のテラといっしょに生まれ故郷を出発してきたが、だいたいは今のクウェートとイラクの南東の境界地域なのかと思うが、そこに生まれ故郷のウルという都市があった。テラ一族は、ウルを出発してハランを通って、カナンを最終目的地としていたので、父テラ亡き後、カナンを目指したのだろう。

しかし、実際は、カナン近くネゲブ地方での旱魃のため、アブラハムはエジプトまで旅をすることになる。エジプトの王様との間ではセラが妻なのに、妹と偽ったりしたために、いざこざも起こる。結局、エジプトを追われ、たいへんな遠回りとなったが、カナンの地に腰を据えて住み始めることができた。

それから、アブラハムによって、地球の家族全部が祝福されることになるという点について、どうなったかについて少々話したい。ハランを出発後25年を経て、なんとアブラハムは100歳、妻サラが90歳の時に、イサクという長子を授かることになる。

そしてイサクからはヤコブが、さらに、ヤコブから紀元前約17世紀に12部族の家長が生まれてくる。ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、セブルン、ダン、ナフタリ、ガド、アシェル、ヨセフ、そしてベニヤミンである。 12部族の中のユダ族のなかからダビデが紀元前1000年ごろに生まれる。　そしてダビデ家の末裔に救い主イエスが生まれる。

75歳の時点では、いったいどういう経路を経て、カナンの地に着くことになるかも全くわからずに、ただ主の示す道に従ったアブラハム。また、25年後に、サラとの間に長子イサクが生まれ祝福を受けることなど、まったく想像もできなかったアブラハムだが、主の示す道に従ったアブラハム。そしてアブラハムはこの世を去ることになるが、その時点では救い主イエスが自分の子孫から生まれることも、なにも具体的なことはわかっていなかったと思う。

しかし、75歳の時点で、アブラハムは、主の祝福という、なにかすばらしいものを確信して、主の道に従った。今日のアブラハムの物語には、わたしたちが学ぶべき信仰の礎があるのだと思う。そして、牧師交代を時期を迎える復活ルーテル教会の群に、父なる神は、ある目的をもって、アブラハムの召命の聖書箇所を与えてくださったと思う。

11月からはインテリムの牧師が与えられるだろうが、数ヶ月から1年前後のプロセスを経て、どのような牧師を招聘する予定であるが、具体的にどういう牧師でだれということはわかっていない。ましてや、また招聘された牧師が何年復活ルーテルを率いるのか、さらに復活ルーテル教会がどのような旅路を経て、25年後にどのような集団になっているのかもわからない。

しかし、この教会にはイエスの愛により、すばらしいことが待っていることは確かだと思う。

大切なことは、復活ルーテル教会の一人一人が、日々、聖書に親しみ、主の御心、憐れみ、愛を観想すること。そして日曜日には、礼拝堂に集い、パンとぶどうジュースあるいはワインを分ち合いつづける、主イエスとの信仰の旅路を歩み続けること。真のリーダである、父と子と聖霊なる三位一体なる神に道を示されて歩み続けることができますように。　そして、神は常に、崇拝する民を必ず祝福し続けてくださる。アーメン。